

ごみ収集車、動く防犯カメラに

尼崎市、県警と協定

ひったくりや交通事故などの捜査に役立てるため、尼崎市は、尼崎南、尼崎東、尼崎北の3警察署に市のごみ収集車に搭載されているドライブレコーダーの映像データを提供する協定を結んだ。「動く防犯カメラ」として、街頭犯罪のほか、車や自転車による交通事故発生への抑止効果も狙う。

ドライブレコーダー活用

同市では昨年1年間に71件のひったくり事件が発生。市は青色灯車両やボラントニアによる防犯パトロール、公民館などでの防犯カメラの設置費用補助を行うなど犯罪抑止に力を入れてきた。このため、今年は

後2カ所にドライブレコーダーを設置。エンジンをかけている間は常時映像が記録され、約14時間分の映像を保存できる。午前8時

協力の要請があれば、市は映像を提供。事件・事故を目撃したりした職員が速やかに警察に通報することも定めている。市の担当者は「小さな通りも移動するごみ収集車の特性を生かし、犯罪や事故の抑止につながれば」と話している。



ごみ収集車に付けられたドライブレコーダー＝尼崎市役所

ごみ収集車記録映像提供

尼崎市、3署と協定

尼崎市と市内3警察署はこのほど、市直営のごみ収集車30台に搭載するドライブレコーダーの映像を、事件発生時に警察に提供する協定を結んだ。こうした協定は県内初といい、一昨年来発生件数県内最多だったひったくりの抑止を狙う。

市はこれまでも可動式防犯カメラを設置するなど抑止対策を進めてきた。

稲村和美市長と3警察署長が協定書にサイン。稲村市長は「犯罪を減らす姿勢を崩さず、今後もやれることは全て取り組みたい」と話した。

(吹田 伸)



ひったくり防止で協定を結んだ稲村和美市長(右から2人目)と警察署長ら＝尼崎市役所